

第 14 回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
総務部会（会議録）

会議の名称 第 14 回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会
開催日時 令和 7 年 7 月 7 日（月） 午後 7 時 30 分から
開催場所 山岡振興事務所 2 階大会議室
議題

- ・ 課題No.3 校章の制定について
- ・ 課題No.5 制服・体操服・かばん・上履きについて
- ・ 課題No.6 閉校記念式典について
- ・ 課題No.7 開校記念式典について

○校章の選定作業

公開非公開の別 公開
出席者 委員
原田 英明
安藤 善和
杉山 淳
小木曾 真由美
市岡 信宏
堀 雄二
近藤 譲
成瀬 久志
加藤 浩児
根崎 紀幸
小笹 寿里（代理出席：伊藤裕美）
加藤 美香
佐藤 正隆
三浦 祐揮
山本 修
堀 歩
鈴木 茜
山田 珠美

教育委員会
工藤 博也 山本 晋平 安部 尚紀
志津 博光 勝 有紀

副部会長 それでは、皆様こんばんは。定刻になりましたので、ただいまより恵那南地区
統合中学校準備委員会第14回の総務部会を始めさせていただきます。よろし
くお願いします。

まず初めに、部会長原田会長様よりご挨拶いただきます。

部会長 着座にて失礼します。暑さが厳しくてちょっと疲れがたまって、声が出にくく
なっていますが、お聞き苦しいところ、申し訳ありません。総務部会ももう
14回重ねまして、開校まで9か月か10か月ぐらいですかね。諸課題、各部
会でいろいろ進めていただいております、この総務部会も大きなのはこの校
章と校歌というのが自分で選ばなきゃいけないのがありますが、本日は校章の
原案が上がってきてますので、また一つ進めていけるかと思えます。なかなか
ものを選ぶというのは難しい作業だと思いますが、皆さんで検討していつてく
ださい。どうぞよろしくお願いします。

副部会長 ありがとうございます。それでは、協議事項に入ります。本日の協議事項、
1、2、3番とレジュメにございます。そしてその後に、本日の一番の主な活
動になりますが、校章の三次選定の作業を皆さんと一緒に取り組んでいくこと
になりますので、よろしくお願いします。

それでは、まず初めに協議事項の(1)から(3)までの内容について、一括
して事務局のほうより説明をしていただきます。よろしくお願いします。

事務局 よろしくお願いします。学校統合準備室の安部といいます。よろしくお願いい
たします。協議事項に入る前に、今日の資料を1枚めくっていただきますと、
名簿がつけてあります。その名簿の岩村こども園ですが、代表の方が決まり
まして、佐藤正隆さんが今回から参加していただけますので、佐藤さんよろし
くお願いをいたします。

委 員 よろしくお願います。

事務局 それでは、協議事項のほうに入らせていただきます。

課題の3、5、6、7の4つの課題につきまして、一括説明をさせていただきます
しますので、よろしくお願いします。

資料の2ページをお願いいたします。資料の2ページの上段になりますのが、
課題ナンバー3、校章の制定についてになります。校章の制定について、昨年
度行いました第10回、11回の総務部会で検討、確認をしていただいておりますが、今年の3月から5月にかけて広く公募をかけて、78作品の申込みが
ございました。

選定につきましては、事務局を中心に選定を進めていくことになりまして、一
次選定につきまして、市内の小中学校の図工、美術部会の先生をお願いをして、
78作品を12作品まで絞り込みをしていただきました。

その後、二次選定では、南地区の中学校の校長先生に依頼しまして選定を行っ
ていただき、12作品を6作品まで絞り込みをしていただきました。

三次選定につきましては、この後、総務部会の皆様に6作品から3から4作品
程度に絞り込みをお願いしたいなと思っております。

絞り込みをお願いします作品につきましては、お手元にクリップ留めで資料を

配付させていただいておりますが、6つ作品がございますが、ここから選定をしていただくということになります。

三次選定ができましたら、その最終案で投票を行いたいと思います。

投票につきましては、これも総務部会のほうで検討をしていただいておりますが、南地区の小中学生と、南地区の小中学生及びこども園の保護者の方を投票範囲としまして、行いたいと思っております。

小中学生につきましては、学校のほうで投票のほうをしてもらいます。保護者の方につきましては、オンラインで、前回制服等でアンケートをしていただきましたが、それと同じような方式で投票を考えております。

次に、投票のスケジュールですが、小中学生につきましては、投票の準備ができ次第、夏休みが7月18日から始まりますので、それまでに学校のほうで行う予定をしております。

保護者の方につきましては、こちら準備ができ次第、お手元に今日お配りした資料の中にチラシが1枚入っていると思います。校章デザイン検討中というチラシになりますが、こちらのほうをすぐるやキッズビューで流しまして、8月15日を期限に実施したいと考えております。

投票結果で最多得票の校章デザインを部会の決定案として幹事会、理事会、総会へ承認事項として提案をしていきたいと考えております。

続きまして、2ページの下段になりますが、課題ナンバー5の制服・体操服・かばん・上履きについてです。

制服と体操服のデザインにつきましては、これは皆さん承知だと思いますが、アンケートを実施し、最多得票のデザインで決定しておりまして、総会まで報告はしております。かばんや上履きにつきましても、校長会からの提案を受けたものになっておりまして、これも総会まで報告をしております。

3ページをお願いいたします。3ページの上段です。課題ナンバー5で、まだ一つ決まっていなかったのが、制服のボタンになります。これは事務局案になりますが、制服のブレザーのボタン柄の決定の事務局案になりますが、まず①といたしまして、サポート業者から提案を受けたデザイン案で選考を考えております。

ボタン柄のデザイン案ですが、これも本日お渡ししました資料の中にカラー刷りでボタンのデザイン案が案⑤まであるものですが、これがデザイン案の参考資料となります。

これから、校章デザインの三次選定をしていただくわけですが、例えばこのボタン柄のこの資料の中の、例えば案の①、案の②、案の③が校章デザインとして総務部会のほうで最終案になった場合は、このA、B、C、D、この4つの中から選んで投票していただくということで、2つは校章入りの2案、あとの2つは校章なしの2案ということで、計4案で投票を考えております。

大変申し訳ありませんが、今日資料では2案と書いてございますが、4案ということで投票を考えておりますので、よろしく願いをいたします。

あと、これはおわびになりますが、三次選考していただくのは6案ございまし

て、今日の資料は5案しかございません。ちょっと6案のほうが間に合っておりませんで、アンケート実施までには間に合うようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

ただ、A、Bにつきましては、校章が入った同じようなデザインになると思います。また、C、Dにつきましては、ほかのデザインと同じような形でデザイン案になりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

次に、ボタン柄の投票については、校章のデザインと同時に行いたいと思っています。投票範囲や方法についても、校章と同じように行いたいと考えております。

ボタン柄につきましても、投票結果で最多得票数のボタン柄を部会の決定案として、課題の5につきましては、幹事会、理事会、総会へ承認事項として提案できればと考えております。

次、3ページの下段になります。課題の6の開校記念式典になります。

開催時期につきましては、まだ確定ではありませんが、予定段階で、令和8年の3月21日の土曜日に9時から串原中学校、11時から明智中学校、翌日の3月22日の日曜日ですが、9時から上矢作中学校、11時から岩邑中学校、14時から山岡中学校で行う予定で調整をしております。

式典の内容につきましては、一定の形式に沿った内容で、各学校と教育委員会で執り行っていくます。

ですので、閉校記念式典につきまして、この総務部会で特に検討していただく内容がありませんので、各学校と教育委員会で式典を執り行うということで幹事会、理事会、総会へ承認事項として提案できればと考えております。

あと、閉校記念事業もございまして、これは各学校と地域が中心となって記念事業の内容や運営について現在検討していただいておりますので、内容など分かりましたら、ご報告をさせていただきます。

4ページをお願いいたします。課題7の開校記念式典になります。開催時期につきましては、まだこれも確定ではありませんが、予定段階ですけど、令和8年の4月7日の火曜日、9時から恵那南中学校で行う予定で調整をしております。

式典の内容につきましては、教育委員会と南地区の5校の中学校長とで内容を決め、教育委員会のほうで式典を執り行います。

ですので、先ほどの閉校記念式典と同様で、総務部会で特に内容等検討していただくことはありませんので、教育委員会で開校記念式典を執り行うということで、幹事会、理事会、総会へ承認事項として提案できればと考えております。協議事項の説明は以上となります。

副部会長 ありがとうございます。ただいま校章のここまでの選定の流れとそれからこの後のことについて、それから制服、体操服、かばん、上履きのことについての確認、そして閉校、開校の記念式典についての確認がございましたが、このことについて、何かご質問等ございましたらお願いします。

委 員 校章のデザインについてですけれども、この校章のデザインのチェックとかは

されている、商標とかそういったところについてはチェック済みという形でよろしかったでしょうか。

事務局 はい、チェックはしております。

委員 ありがとうございます。

副部長 そのほか、よろしかったでしょうか。

ありがとうございました。それでは、今ご質問もありました校章の三次選定のほうに入っていきたいと思います。

ここからは、実は一次選定と二次選定のほうには、私も関わらせていただいたものですから、そのときの経緯も含めてお話をさせていただき、この6つのデザインのいいところについて、私のほうからお話をさせていただきますので、皆様にはクリップ留めにしてあります中に、皆さんに点数をつけていただく用紙がございます。そちらのほうをご記入いただきながらお話を聞いていただき、それを集計したものを基にして、デザイン案の絞り込みをしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、ちょっと前のほうに失礼いたします。

事務局 ちょっといいですか。採点表の説明だけさせてもらいます。これもお手元にお配りをさせてもらいました。採点表の三次選定というものがあると思います。これの記入方法ですが、一番上の欄が記入例になります。作品ナンバーにつきましては、もう入れてありますので、ここに記入する必要はありません。

例えばこの作品ナンバー15につきましては、①校章のデザインで、新しい学校がイメージできるかというところで、右のほうに行っていただきますと、採点が5点から1点まであります。これは5点だなと思ったら丸をつけてください。

次に、様々な使用時に違和感はないか。当然校章ですので、小さくしたり大きくしたりという使い方がありますので、その辺の違和感になりますが、違和感はないということであれば、5点ないし4点と入れていただくと。

あと、②の校章に込めた思いというのは、この資料の中にも作者のデザインの思いが書いてありますので、それを確認していただきまして、デザインに分かりやすく反映されているか、ここら辺もまた点数を入れてください。

内容が新しい学校にふさわしいかというところも採点を5点から1点の間に入れてください。

そのトータルをここの採点計というところに合計点を入れていただきたいなと思います。そこまでお願いしたいと思います。

この後、安藤先生のほうから作品について説明をいただきまして、時間を取りますので、そこで皆さん、採点のほうよろしく願いいたします。では、安藤先生お願いいたします。

委員 ごめんなさい。ちょっといいですか。校章って、これってこの形がそのまま鋳造されるというイメージですか。

事務局 そうですね。基本はこれなんですけど、例えばもうちょっと文字を大きくしたりだとか。

委 員 じゃなくて、例えばとがった部分とか、そういうのがどういうところに、どこにつけるのかなというところもあったんですけど、そういったときのどういうシーンでこの校章って、どこにつけられるのかなというのがあったので、今その辺どういうふうに想定されているのかなというのをちょっと先に確認させてください。昔ですと、詰め襟とか男子生徒はつけていたりしたと思うんですけど。

事務局 特にバッジとかは作る予定はないので、校旗というか、大きい旗が、学校の旗がありますね、そこに入れたりとか、あと封筒だとか。

委 員 じゃあ、こういう形が鋳造されて名札につけたりとかというのは想定していないということですか。

副部長 そうです。いわゆる高校の例えば襟にピンで留めたりするようなものは金属で鋳造して作ったりするので、あまり先が鋭利な状態だと加工が必要だったりするんですけども、丸とか四角の上にそのマークを刻印するような形だったりとか、そういった配慮が必要なんですけれども、今のところは今お話があったように、旗や印刷物等を平面のものにプリントする仕様のところで想定しておりますので、今のところはそういった立体物の、あとはこのボタンに使うかどうかというところでございますので、そこで選定していただければと思います。

委 員 すみません。ありがとうございます。

副部長 ありがとうございます。

それでは、先ほどお話があったとおり、78点の応募がございました。そのうち約半分ぐらいは恐らく小中学生が書いたであろうものでございました。私も応募した人の氏名や年齢やなんかは一切伏せた状態でいただいて審査をしているものですから、何とも分からないまま審査をしました。

ただ、やはり学校のマークということで、当然プロが仕上げたような最初から完成度の高いものもありましたし、今言ったような小学生や中学生が書いた拙いスケッチのものもありましたが、ここは最初の完成度の高さではなく、やはりこの学校に、新しい中学校に込められた夢や願い、そういったものをどういうアイデアで形にしようとしているのか、そのアイデアでもって選ぶように心がけました。

そのため、大人のデザインばかりに目が行かないように、一次審査については、小中学校の図工美術を専門にしている方たちに審査をお願いしました。そのうちの一人は、長いこと、岐阜県の造形連盟といって、図工美術の会の会長もされている、大変造詣の深い方にも入っていただきながら、デザインの選定を行いました。

そして、新しくできる中学校のマークということですので、二次審査については、これも現場の方ということで、5校の校長先生方に審査をお願いして、12案のものをこの6案に絞り込んだものでございますので、実はこれ、どれも完成度の高い仕上がりで、今皆さんにご覧いただいておりますが、当初は子供が書いた拙いスケッチのものを事務局のほうでデザインにたけた方に、きれいに整図し直していただいて、今この同じ土俵に載せてあるものもございますので、

ご承知おきください。

ですので、先ほど事務局のほうから少しお話がありましたが、例えばこのデザインの中には南とか南中という文字が出てきますが、この文字も、例えば中をなくして南だけで大きくしたほうがいいんじゃないかというようなものもあります。

これは、応募をする時点で、作者の方には途中でそういうデザインの変更もこちらですということ承知の上で出していただいているので、皆様のご意見でここをもうちょっとこうしたほうがいいのかというようなものがあれば、そのような一部修正も加えて、この後アンケートに載せていくということもありますので、そういった点でも一つ一つのデザインをご検討いただければと思います。お願いします。

では、番号の若いほうから順番にいきたいと思います。まず画面に出ていますのが作品ナンバー15番です。まず、今回の新しい中学校ですが、学校の基本構想の中にあるのが「未来をつくる」、そして「人とつながる」、「地域とあゆむ」の3つの柱が示されています。

未来をつくるというのは、子供たちが、生徒が夢を持って努力をして成長して未来を切り開いていくという意味が込められています。そして人とつながるというのは、5つの地区、5つの学校が一つになって、新しい学校で歩みを進めていくという願いでございます。

そして地域とあゆむということで、この恵那南地区ならではの文化や自然やそういったものが、この校章の中に込められていけばすばらしいなということで、この3つの視点でそれがどれだけこのデザインに込められているかということころで見させていただいています。

なお、評価の5段階のものですが、6つを並べたときに、普通だなと、平均的だなと思うところを3だと思ってください。6つのほかのものに比べて、これはいいなと思うものには4とか5に丸をつけてください。

そしてこれはちょっと残念だなというところには、2とか1をつけていただければいいかと思います。よろしくお願いします。

では、まず作品ナンバー15番ですが、こちらですが、桜の花に成長のイメージを重ねて、学校というと桜の木が大体どこも植わっていて、その桜の木が子供たちの成長を感じさせるということで、桜の花が絵柄の中に含まれています。

そして、日本の伝統的な七宝模様のデザインが組み込まれていまして、七宝のデザインというのは、いわゆる単純な5つの輪っかの重なりのところ、こういった間のところに入れて、七宝焼きって皆さんご存じですかね、ガラスの粉を入れて焼いて作る工芸ですが、そちらでよく使われているデザインを採用しています。5つの地区が一つになるということで、5つの丸が重なり合うようになって一つの形になっています。

そうすることで、この新しい中学校が繁栄と成長の願いをそこに込めていますという作者のコメントがございます。

では、次に23番です。この23番の絵柄のまず真ん中にある2つの山、これが恵那の南地区に広がる美しい山並みを表しています。そして、この山並みを取り囲むようにして、虹のような線が5本があるんですけれども、5つの地区がぐると一つにまとまっていくというイメージを表しています。そして、そのぐると一つになったその先には、恵那の南地区の自然を象徴するササユリの花をあしらっています。

このササユリの花は恵那南地区のどこの地区でも見られる花でもあり、恵那市の花でもあるということで、恵那を、恵那南を象徴する花としてササユリを採用しています。

やはりこの円に、5つの線の一つにまとめながら円にしているところに、5つの学校の生徒がここで一つで輪になって、新しい中学校を作って進めていってほしいという願いが込められているものです。

なお、これ、ほかに比べてちょっと文字が小さいものになっていますので、例えばこれを南だけにすると、ほかと同じぐらいの大きさの文字にすることも可能です。

続いて24番です。こちら、5つの地区が一つになるということで、周りにこの5つの模様がつけられています。この模様というのは、先ほども出ましたササユリの花を横から見た形を図案化して、5つにまとめたものでございます。そして、これが一つになることで、恵那南の5地区が一つになって、新しい中学校になるというものを表しています。

そして、この花が外に向かって配置をされています。これが成長や広がりを表して未来をつくるというところの願いを、この外に広がるヤマユリの形に込められています。

続いて32番です。割と今風なデザインです。よく新しい中学校や高校なんか、ここに欧米の学校なんかがちょっと洋風のマークをつけているようなものがあるんですけれども、ちょっとそういったものをイメージさせるデザインになっていますが、恵那のアルファベットのEが、この翼のような形のところに、恵那のEが入っているということです。

このEの形が、恵那市の市章もそうなんですけれども、鳥の翼のように広がった形に見えるということで、未来へ向けて羽ばたいていく、成長していく若者たちのイメージをここに表しています。

この、先ほども出てきました桜の花は、これは学校に必ずと言っていいほどある桜の花にも、やはり先ほどのような成長ですとかの意味が込められています。

続いて63番です。この63番ですけれども、真ん中のこの中学校の中の文字の周りにあるのが、これがササユリの花を図案化したものです。このササユリの花というのは、花びらの花弁の数が5つということで、まさにこの5つの地区が一つになるというイメージにもなっていて、5つの地区が一つになっているというイメージです。

そして、この両側にあるこちらのすっと伸びた形、これはササユリの葉でもあり、恵那の南地区を流れる美しい川の流れも表しているというデザインになっ

ています。

これがVの形になっているのは、先ほどの翼と同じイメージで、翼のように広がって大きく羽ばたいていく、そういったイメージも込めてこういった形になっています。

最後に76番です。この76番も恵那のアルファベットのEの文字が5つ、翼のようにつけられています。これも込められた願いは一緒に、大きく羽ばたいていってほしい、その若者たちが未来に向かって力強く羽ばたいていってほしいというイメージもあり、恵那の地を表すEというものとも重ねてあります。そして5つの翼ということで、5つの地区が一つになって、学校を形づくるという願いもイメージも込められています。これが5つの地区がつながるといところになっています。

ということで、今6つのデザインの意図やそれぞれのすばらしいところも述べさせていただきました。

もう少し、ここは、この作品のこれはどういう意味合いなんだろうかというようなところがございましたら、審査員の間で話題になったところでお答えできる範囲でお答えしたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 はい、ありがとうございます。そしたら、ここで後ろの入り口のところにある時計で20分まで採点の時間を取りたいと思いますので、それでは各自で採点のほうをよろしくお願いいたします。

何か分からないことがありましたら、遠慮なく言ってもらえればと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員 これ、皆さんが採点した点数を集計して、得点数が高いものを選ばれるということですね。

事務局 上位3位までを考えています。

委員 僕の勝手な意見なんですけども、この6枚に絞られた時点で、この1とか2をつけるつもりは全くないんです。正直、そんなレベルの低い作品が出ていると思っていないので、大体3から4の間に多分集中すると思うんです。

そうすると、みんな似たような点数になってこないかなというのは僕の中では思っています。

そうなった場合、どういうふうにするのかなというのもありますし、このたった20分の間に3作品に絞られるとはいえ、これがずっと南中学がなくなるまでこの校章でいくよというのが、ちょっと僕の中では重いです。20分間で決めよというのが、正直。

だったら事前にもうちょっと資料を配られて、届けられた案の中にこのまま入れていただいて、じっくり考える時間が欲しかったなと正直。

今日来て、見て、20分、30分で決めろと言われても決められないです。こういう中で、すみません。

事務局 分かりました。ごめんなさい、資料のほうが今日、お配りさせてもらって、そこで決めてくれというというのはちょっと無理があるかなとは思いますが、総務部会の皆さん、それぞれの団体から選ばれてきていただいておりますので、

そこはちょっと責任を持ってというか、そこら辺は責任を負っていただいて、選んでいただいて、まず、一度採点してもらって、集計かけて、そこで、同点だったらちょっとまたそこで考えさせてもらうというところで、まずは採点のほうをお願いしたいと思いますので。すみません。

副部会長 一次選定、二次選定のときにも、本当に上位のものは点差が本当になかったんです。どれもすばらしいということで。本当に委員の皆さんが難しいとおっしゃられるのは、本当に当然のことですので、ただ、これをアンケートに次、皆さんに出していくときに、ちょっと6つだと選択肢がさすがにちょっと多過ぎてしまうというところで、理想を言うと3つぐらいに絞りたいんですけども、きっと上位で接戦になると思うので、先ほど資料の中にもありましたが、4つぐらいでもいいのかなというふうには思いますので、ちょっと難しい審査でございますが、じっくりと見比べて、校章にするとすてきだなと思うものを選びたいと思います。ご協力ください。お願いします。

部会長 上位になっているのは、同点の可能性が高い。

副部会長 本当にそうです。

委 員 すみません、ちょっといいですか。選定に当たって何か重視した内容というのは、先ほど冒頭でおっしゃった内容がポイントというか、選ばれてこの6つに最終的にはなったというのは、一次選定、二次選定も同じポイントで見られているという。

副部会長 そうです。違う審査基準になってしまうと、選定がぶれてしまいますので、基本構想にある3つの柱のところに沿ったものがどれだけデザインの中に反映されているか、そこで審査員一同でちゃんと共通認識を持って審査に臨みました。

部会長 最初に先生がおっしゃった6つの中で比べて普通というラインを3として、その上下に来るというぐらいにしないと、4のところを基準にしてやる人があるというそっちが点数で。

副部会長 どれも本当にすばらしいので、全部。

部会長 まずは、この中で平均的なラインを3というふうにした上で、上下というふうな考え方に忠実に。

副部会長 本当に難しい作業をしていただいていることは承知の上で。

(選定中)

委 員 すみません、質問いいですか。ボタンデザインの資料を見たんですけど、案④の桜は白抜きされているところが三次選定資料のデザインと違うんですけど、32番のデザインとか、桜がボタンになるところとか。若干違うんですけど、ここはどうなるんでしょうか。私は、個人的には桜が白のほうがいいなと思ったんですけど、整っているの。

事務局 これも案の段階なので。どうでもなります。

副部会長 それでは、採点表を回収させていただきます。

(集計)

- 副部会長 今、皆さんの審査を点数化して入力が済みました。確認いたします。作品ナンバー15が273点、作品ナンバー23が243点、作品ナンバー24が257点、作品ナンバー32が294点、作品ナンバー63が227点、作品ナンバー76が229点となりました。やはり僅差となりました。黄色に色付けされているところが上位3作品でございます。今回、子どもたち、それから保護者の皆様にアンケートをとるにあたって、3つでいくか4つでいくか、なんですが、点数でいいますと作品ナンバー23をアンケートの選択肢に入れるか皆様に諮らせていただきたいと思います。
- 委員 入れればいいと思います。
- 副部会長 入れてもかまないとお考えの方は、挙手をお願いします。
(挙手多数)
- 副部会長 賛成多数ということで、23番の作品についてもアンケートの選択肢の中に入れてさせていただきます。それでは事務局の方で、この4案について取りまとめたものをアンケートに諮れるように進めてください。
- 委員 アンケートの案の中に、これを選定した、先ほどの副部会長がおっしゃった内容を入れていただきたいと思ったんですけど。
- 副部会長 作品に込められた思いや、デザインのいいところですか。
- 委員 それはここに入ってるんですが、最初冒頭でおっしゃった、なぜここまでの内容に絞り込まれたかがあったと思うんですけど、選定基準として・・・
- 副部会長 基本構想の3本柱のところ、デザインにどう織り込まれているかというところですね。
- 委員 そこを着目して選定してきたプロセスを書いてほしい。
- 副部会長 それは私の方で原稿を作成して事務局へ送ります。
- 事務局 先ほど少し説明しましたが、保護者の方へアンケートをお願いするチラシをご確認ください。QRコードがついていますので、携帯をお持ちの方は読み込んでいただきますと、まだテスト環境ですが、アンケートがどんな感じで答えられるか確認できますので、試しに答えてもらえればと思います。
- 副部会長 金へんに口と書いてボタンと読むと思うんですが、なかにはこの漢字を読むのが難しいかなと思う人がいるかもしれませんので、カタカナ表記をお願いします。
- 事務局 わかりました。
- 委員 小学生、中学生子どもがいる場合の回答区分は。
- 事務局 おひとり様1回で、どちらかで答えていただければと思います。
- 副部会長 では、長時間にわたりまして難しい審査をしていただきましてありがとうございます。予定されていた協議事項は以上となります。3の連絡事項について事務局からお願いします。
- 事務局 次回の総務部会ですが、予定では8月15日で保護者の方へのアンケートが終わりますので、その後、校章やボタンデザインがどういったデザインに決まっ

たか報告する総務部会、またそれまでに他に動きがあり、皆様に報告できる内容があれば8月の終わりの方で総務部会を開けたらと思っています。日程が決まりましたら、ご案内をさせていただきますので、よろしくお願いします。

副部会長 よろしかったでしょうか。

委 員 ちょっと気になったんで、ひとこと言わせてもらいます。今日、7月7日に総務部会を開催した理由はあるのでしょうか、という確認をしたかっただけなんですけど、今日って世の中七夕ですね。保護者の方に集まってもらうにはちょっと不適切かなとちょっと感じたんですけど、そのへん配慮されているのかなと思ひまして。まあ人それぞれなんで、どうこうってことないと思うんですけど、家族と過ごしたいなと思われてる方は特に、こういうイベントに日にちを選定するのは、あまりよくないのかなと感じまして言わせていただきました。

事務局 申し訳ありませんでした。この日に設定したのは、部会長さん、副部会長さんの都合と会場の都合、あと、これから子どもたちへアンケートを取っていく関係で夏休み前に、どうしてもデザイン案の三次選定がしたく、申し訳ありません、今日という日に設定してしまいました。家庭的に何かイベントを計画されているところがあったかもしれませんが、申し訳ありません、配慮が欠けておりました。以後、日にちを設定する際は、そういったところも配慮しながら設定していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

副部会長 それでは、これもちまして第14回の総務部会を閉じさせていただきます。本日は、ありがとうございました。お氣をつけてお帰りください。